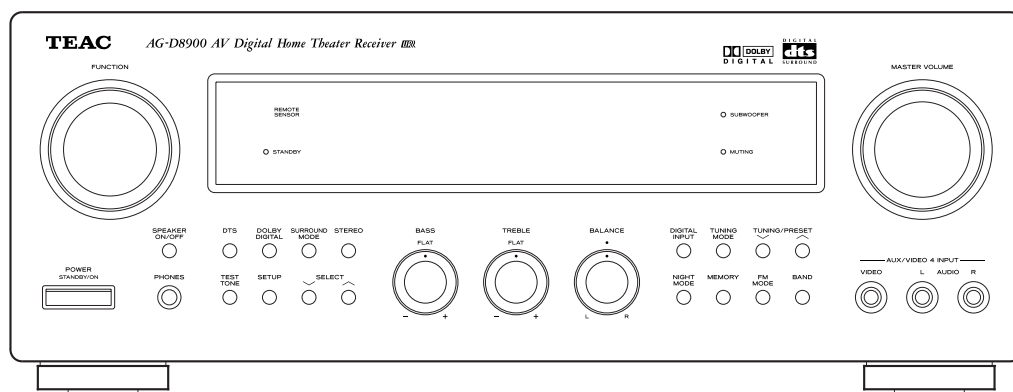
9A08523300

TEAC

取扱説明書

AG-D8900

AVデジタルサラウンドレシーバー

お買い上げいただき、ありがとうございます。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに保証書と一緒に大切に保管してください。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

表示	意味
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

絵表示	説明
	⚠記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

⚠警告

絵表示	内容
	万一、煙が出たり、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店または当社サービスセンターに修理をご依頼ください。
	万一、機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)販売店または当社サービスセンターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
	電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。

⚠警告

	この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店または当社サービスセンターにご依頼ください。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意

	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。
	電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。 ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所 ・湿気やほこりの多い場所 ・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所
	電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで、長期間この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
	お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

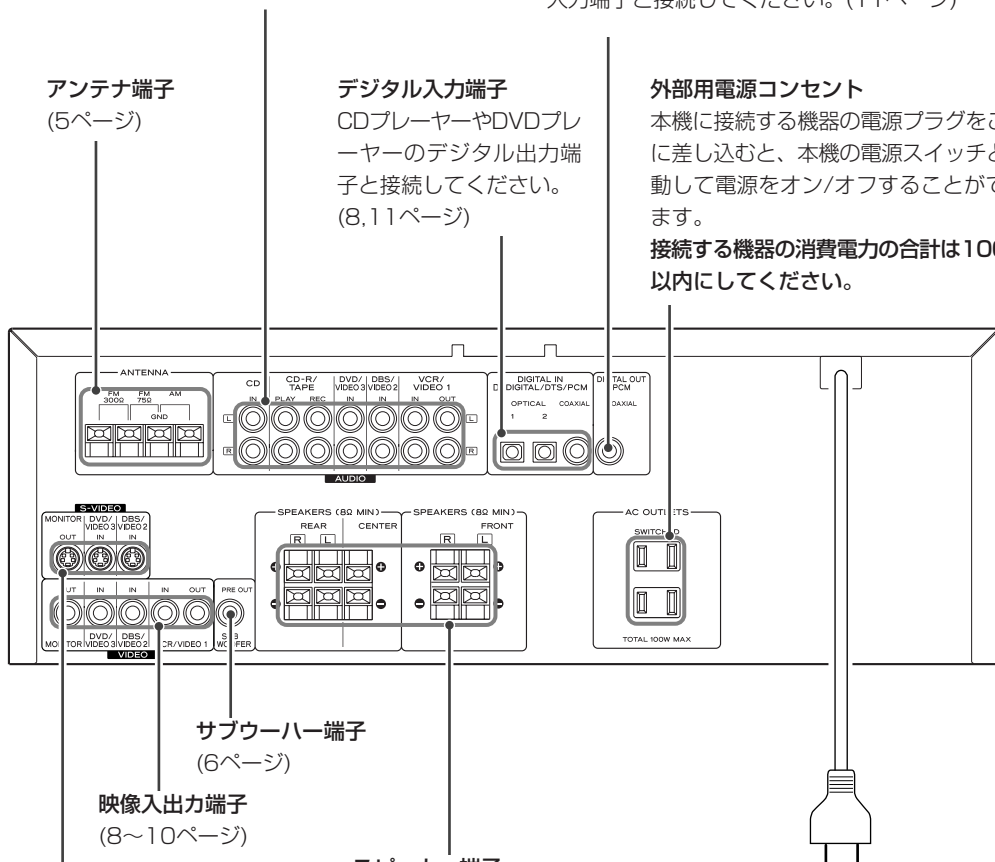
接　続

音声入出力端子
各機器の音声入出力端子と接続してください。

デジタル出力端子
CDレコーダーやMDデッキなどのデジタル録音機器や、外部デコーダーなどのデジタル入力端子と接続してください。(11ページ)

アンテナ端子
(5ページ)

デジタル入力端子
CDプレーヤーやDVDプレーヤーのデジタル出力端子と接続してください。
(8,11ページ)

外部用電源コンセント
本機に接続する機器の電源プラグをここに差し込むと、本機の電源スイッチと連動して電源をオン/オフすることができます。
接続する機器の消費電力の合計は100W以内にしてください。

サブウーハー端子
(6ページ)

映像入出力端子
(8〜10ページ)

S映像入出力端子
(8ページ)

スピーカー端子
(6ページ)

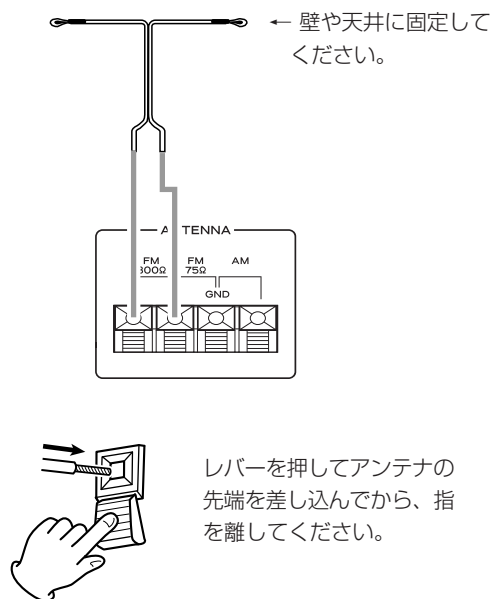
⚠ **全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。また、交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因になります。**

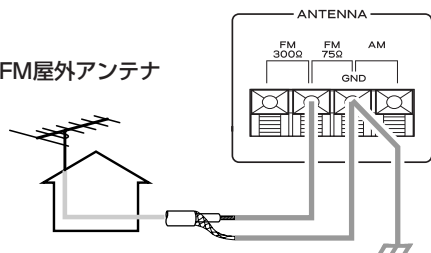
電源の抜き差しは、必ずプラグを持って行ってください。

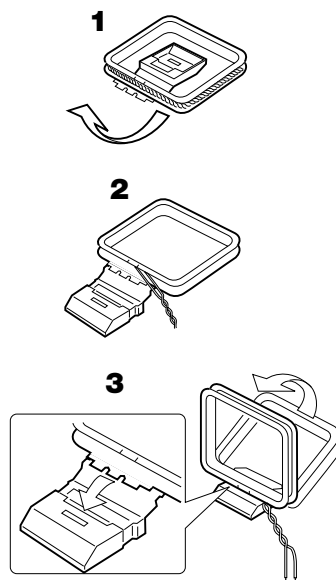
FMアンテナ

付属のT字型室内アンテナをFMアンテナ端子に接続し、受信状態が最もよくなる位置に画鋲やテープなどで固定してください。

T字型室内アンテナ

レバーを押してアンテナの先端を差し込んでから、指を離してください。

FM電波の弱い地域では3素子以上の屋外アンテナを使用し、75Ω同軸ケーブルで接続してください。

- 屋外アンテナを使用するときは、落雷時の感電防止のため、必ずGND端子をアースにつないでください。
- 付属のT字型アンテナははずしてください。

AMアンテナ

付属のAM用ループアンテナを図のように組み立ててAMアンテナ端子に接続し、受信状態が最もよくなる方向に向けてください。

AM電波の弱い地域では、6〜15mのビニール線を窓際か屋外に水平に張ってください。

- 屋外アンテナを使用するときは、落雷時の感電防止のため、必ずGND端子をアースにつないでください。
- 屋外アンテナを接続する場合も、付属のループアンテナは接続しておいてください。

接　続

スピーカーとの接続

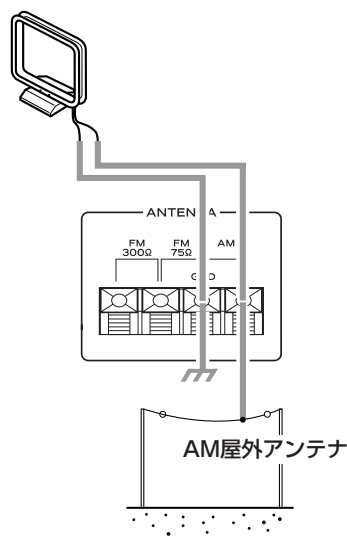
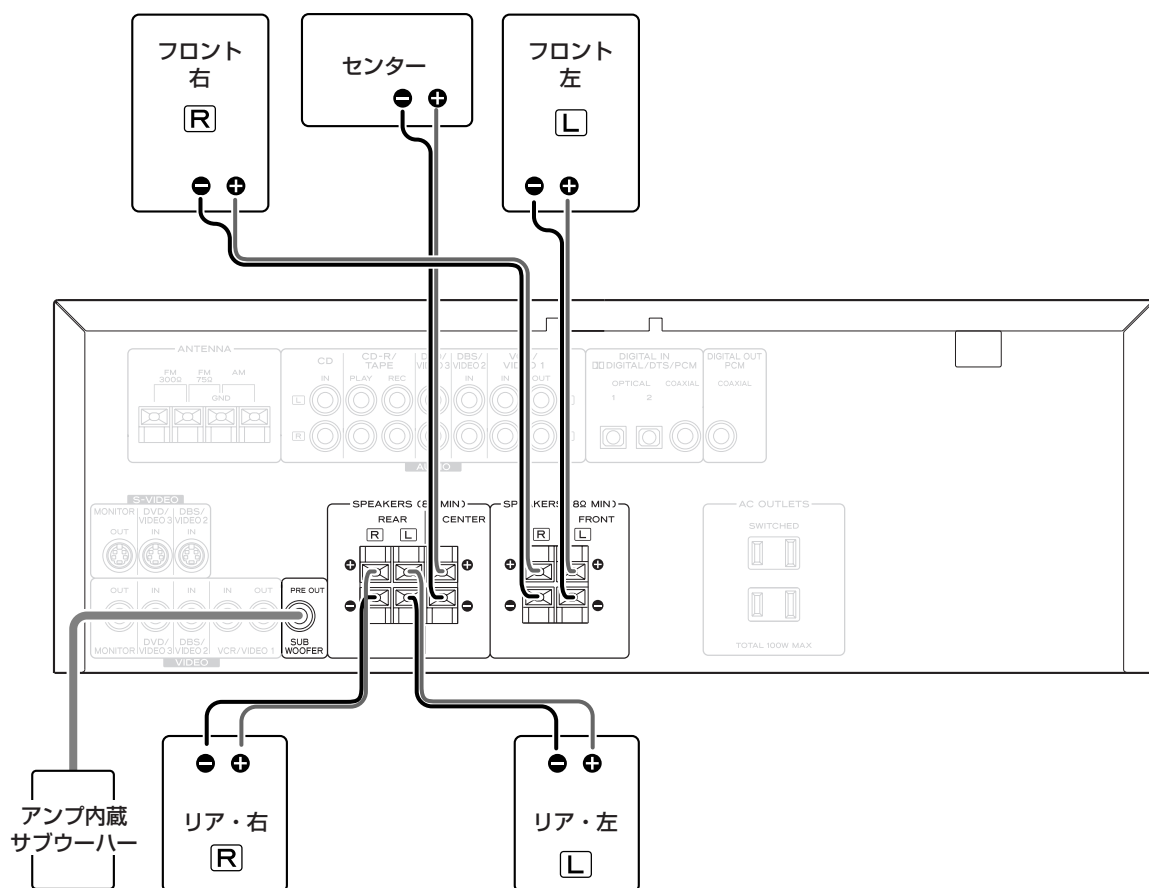
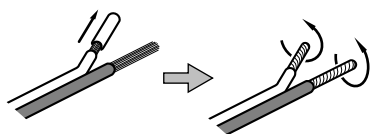
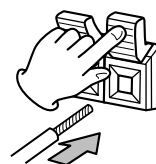
フロント右 R

センター

フロント左 L

アンプ内蔵サブウーハー

リア・右 R

リア・左 L

スピーカーコードには⊕と⊖があります。
スピーカーコードの⊕と⊖は絶対にショートさせないでください。

スピーカーコードの被膜を剥いて、芯線をしっかりよってください。

レバーを押してスピーカーコードの先端を差し込んでから指を離してください。

フロントスピーカー

- L端子につないだスピーカーを左に、R端子につないだスピーカーを右に設置してください。
- できるだけ視聴するときの耳の高さに設置してください。

センタースピーカー

- フロントスピーカーの間(テレビの上か下)に設置してください。
- できるだけ視聴するときの耳の高さに設置してください。

リアスピーカー

- L端子につないだスピーカーを左に、R端子につないだスピーカーを右に設置してください。
- 視聴する場所の左右で、高さ1.5m〜2mの位置に設置してください。

サブウーハー

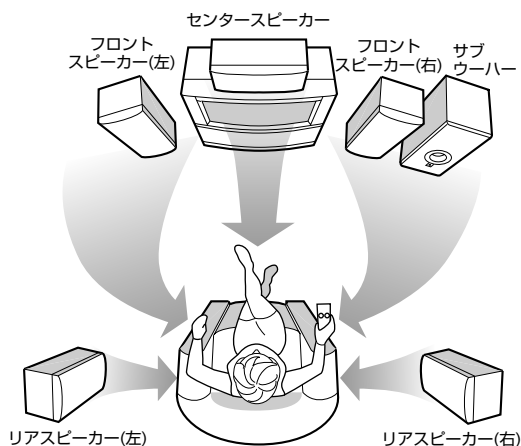
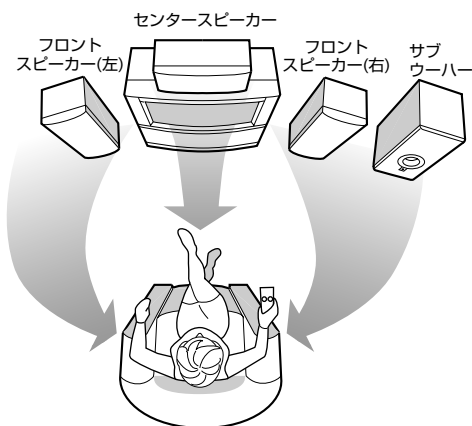
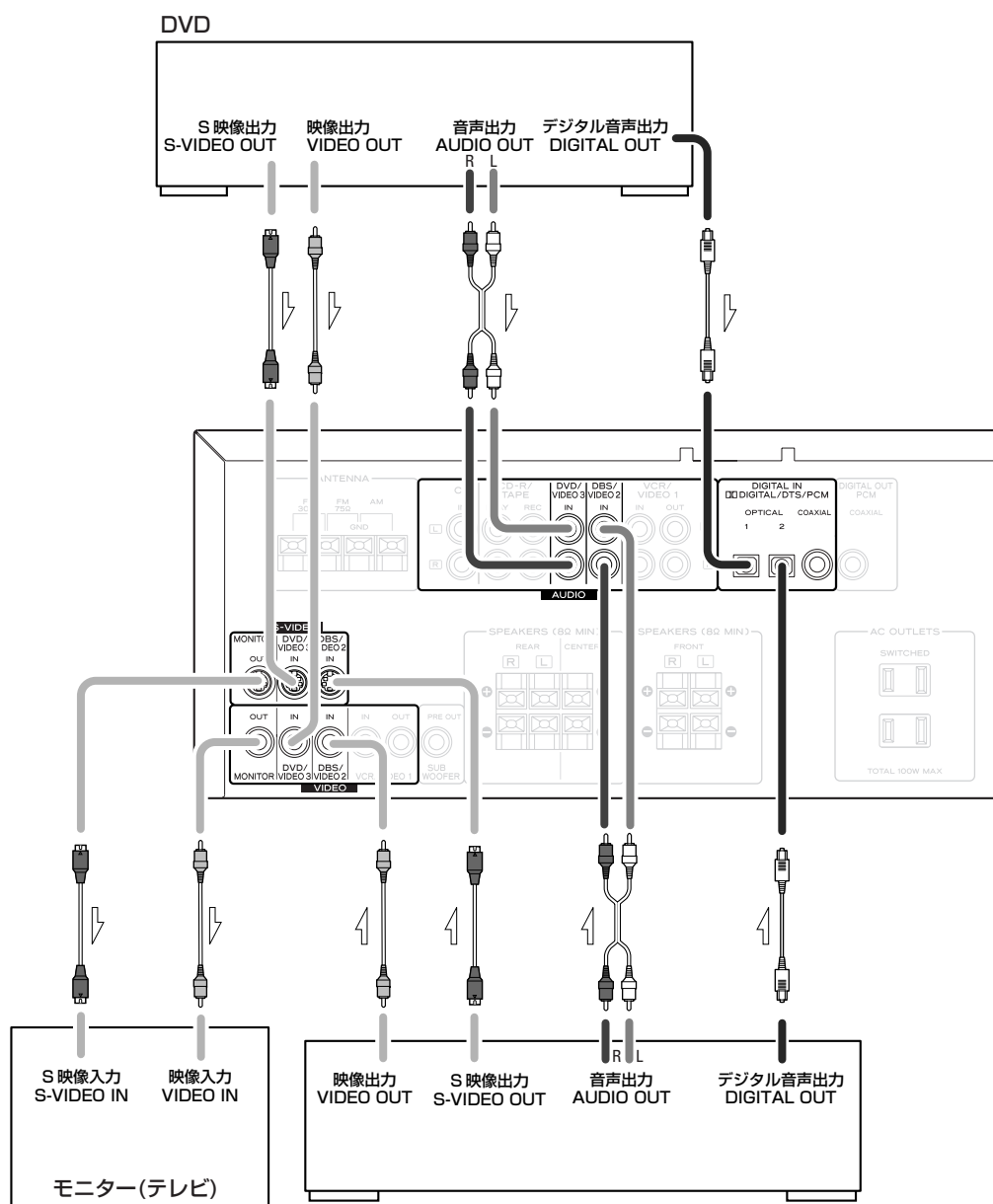
- アンプ内蔵のサブウーハーを接続すると、迫力のある重低音をお楽しみいただけます。市販のオーディオケーブルで接続してください。

注意

- スピーカーコードの芯線をスピーカー端子以外に接触させないでください。
- 音量を上げすぎないでください。
- スピーカーの振動板には手をふれないでください。
- スピーカーは公称インピーダンスが6Ω〜16Ωのものをお使いください。
  6Ω未満のスピーカーを使用すると、ディスプレーに"PROTECT"が表示されることがあります。やむを得ず6Ω未満のスピーカーを使用する場合は、音量を下げてお使いください。
- 使用するスピーカーに合わせてスピーカーのモードを選んでください。(24ページ参照)
- フロントスピーカー/センタースピーカーをテレビに近づけて設置した場合、色むらが出ることがあります。そのような場合にはスピーカーをテレビから離し、色むらの出ない距離でご使用ください。
- スピーカーの前に障害物を置くと、サラウンドの効果が損なわれることがあります。

5スピーカーの配置例

3スピーカーの配置例

接　続

DVDプレーヤー、BS/CSチューナーとの接続

● 市販のAVケーブルで接続します。白のピンプラグを白(L：左)の音声端子に、赤のピンプラグを赤(R：右)の音声端子に、黄色のピンプラグを映像端子に接続してください。

● モニター(テレビ)にS映像入力端子(S-VIDEO IN)があり、DVDプレーヤーにS映像出力端子(S-VIDEO OUT)がある場合は、市販のS映像ケーブルで接続すると、よりきれいな映像を楽しめます。

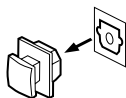
● 映像端子(VIDEO)とS映像端子(S-VIDEO)の回路は独立しています。S映像を再生する場合は、使用する機器(DVDプレーヤー、アンプ、テレビなど)を全てS映像ケーブルで接続してください。

● 衛星放送などを録画するときのために、AVケーブルで映像端子を接続しておいてください。

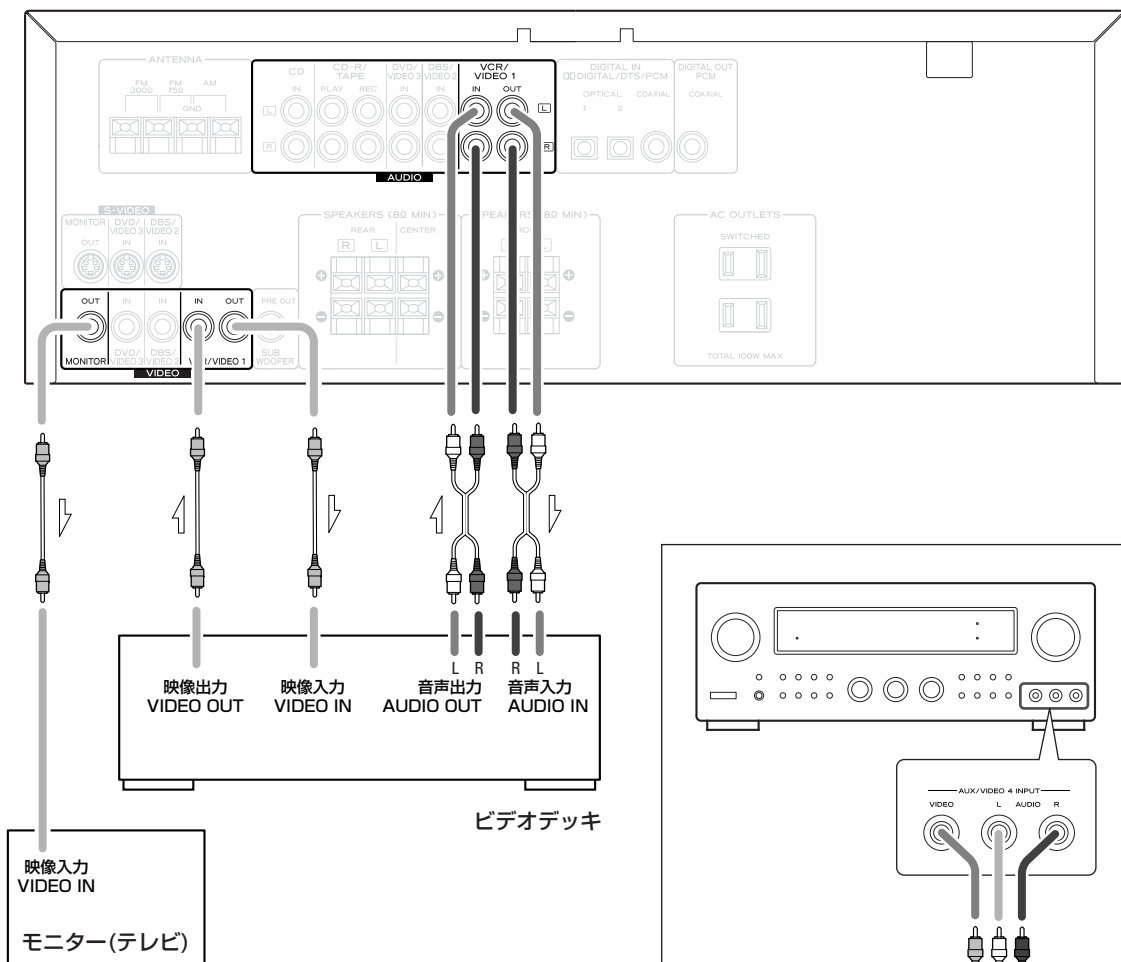
● 入力切換つまみでVIDEO1またはVIDEO4が選択されているときは、S映像出力端子からはVIDEO3の映像が出力されます。

● DVDのディスクによってはコピー禁止信号の入っているものがあります。
そのようなディスクを録画しても、正常に再生することはできません。また、コピー禁止信号の入っているディスクの音声をデジタル信号のまま録音することもできません。
(音声をアナログで録音することは可能です)

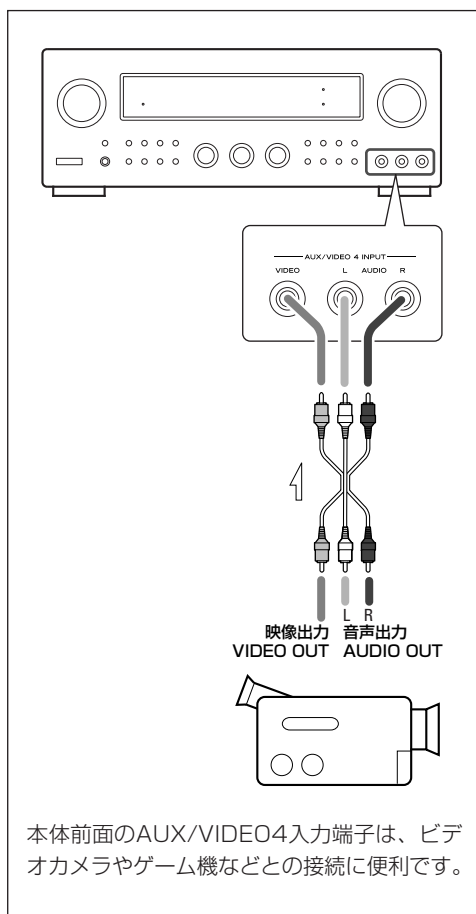
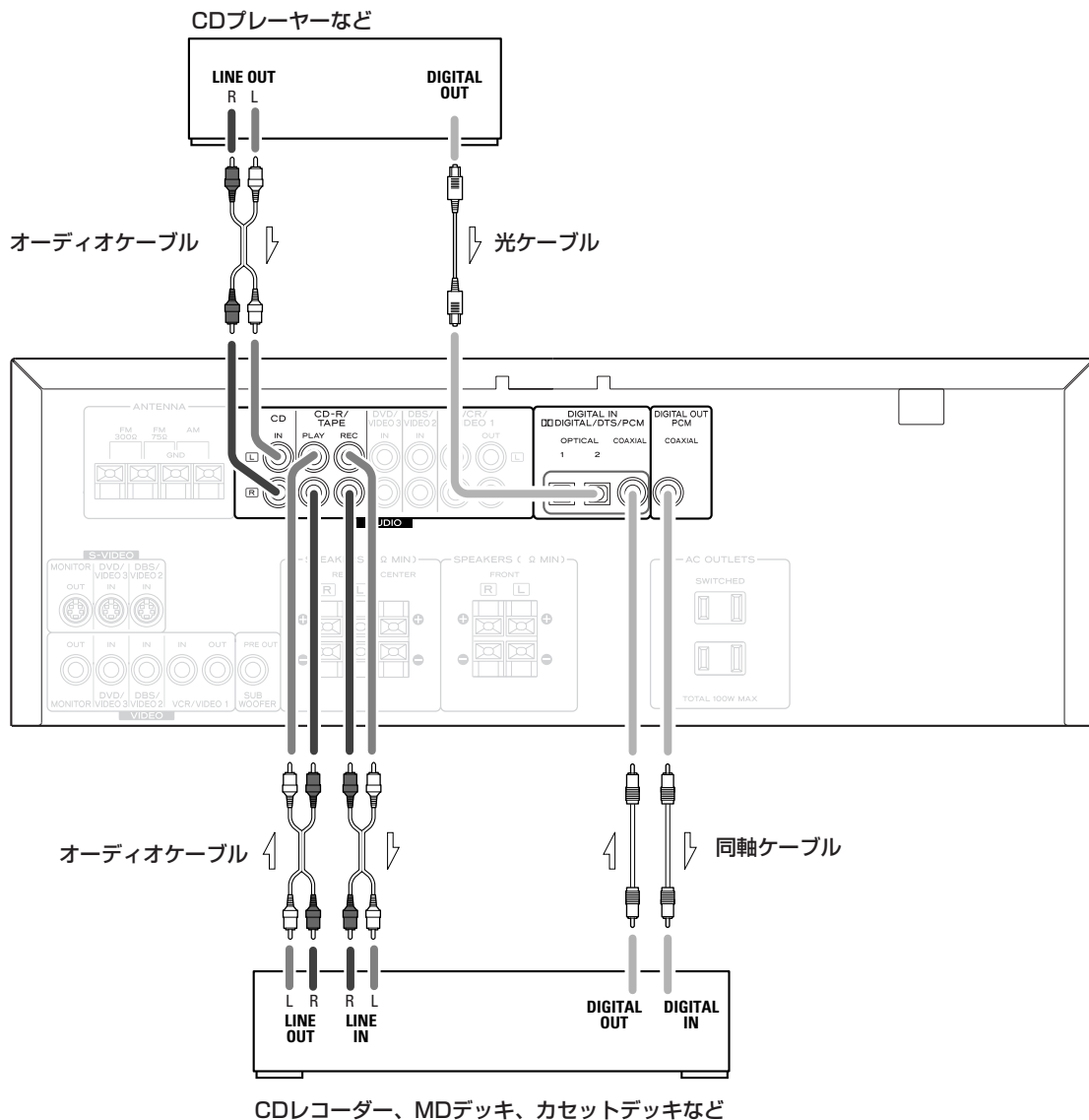
デジタル音声入力端子　[DIGITAL IN　DDDIGITAL/DTS/PCM]

接続する機器にデジタル音声出力端子がある場合は、同軸ケーブルまたは光ケーブルでデジタル音声入力端子(OPTICAL1,2またはCOAXIAL)に接続してください。

光デジタル端子を使用するときは、キャップを外してください。
使用しないときはキャップを付けておいてください。

接　続

ビデオデッキ、ビデオカメラとの接続

VCR/VIDEO1入出力端子
AUX/VIDEO4入力端子

● 市販のAVケーブルで接続します。白のピンプラグを白(L：左)端子に、赤のピンプラグを赤(R：右)端子に、黄色のピンプラグを映像端子に接続してください。

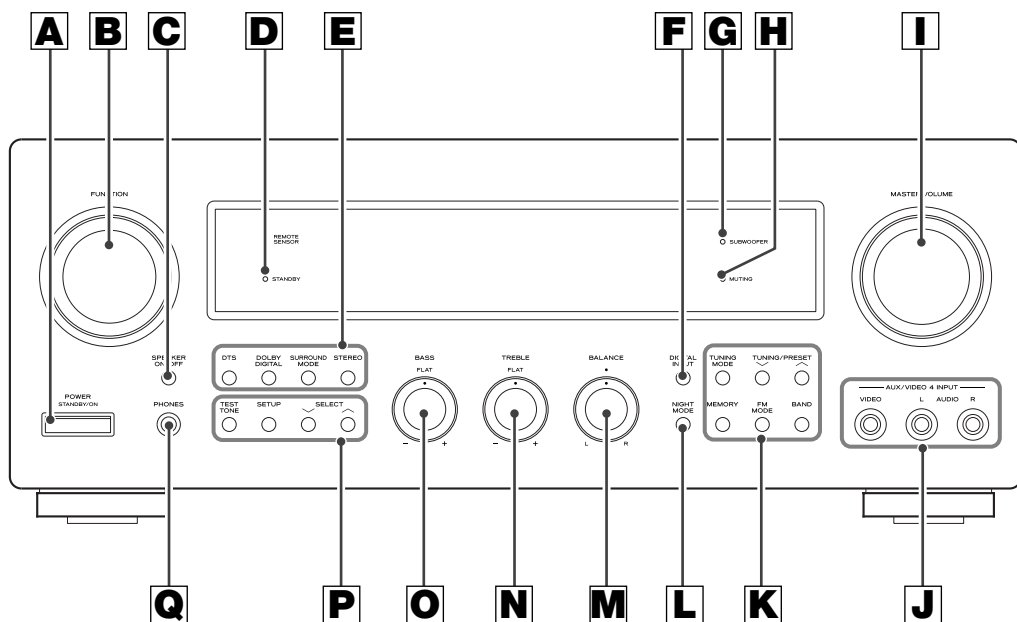
本体前面のAUX/VIDEO4入力端子は、ビデオカメラやゲーム機などとの接続に便利です。

CDプレーヤー、CDレコーダー、MDデッキ、カセットデッキとの接続

音声入出力端子[CD, CD-R/TAPE]

- 市販のオーディオケーブルで接続します。
- 白のピンプラグを白(L：左)端子に、赤のピンプラグを赤(R：右)端子に接続してください。
- デジタル音声入出力端子を接続した場合も、アナログで録音するときのために音声入出力端子は接続しておいてください。

デジタル音声入出力端子[DIGITAL IN/OUT]

接続する機器にデジタル入出力端子がある場合は、同軸ケーブルまたは光ケーブルで接続してください。
どのDIGITAL IN端子と接続しても構いません。

- 光デジタル入力端子を使用するときは、キャップを外してください。使用しないときはキャップを付けておいてください。
- デジタル信号録音するときは、CDプレーヤーなどの再生機器をDIGITAL INに接続し、MDなどの録音機器をDIGITAL OUTに接続してください。

各部の名称

A 電源ボタン(14ページ)
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

B 入力切換つまみ/入力切換ボタン
ソースを切り換えます。

C スピーカー オン/オフボタン(15ページ)
フロントスピーカーのオン/オフを切り換えます。

D スタンバイインジケーター
電源がスタンバイ状態のときに点灯します。

E サラウンド設定ボタン(20ページ)
サラウンドの設定に使用します。

F デジタル入力切換ボタン(14ページ)
接続した端子に合わせて切り換えてください。

G サブウーハーインジケーター
サブウーハーがオンのとき点灯します。

H ミュートインジケーター(16ページ)
ミュート中に点滅します。

I 音量調節つまみ(15ページ)
左にまわすと小さくなり、右にまわすと大きくなります。

J AUX/VIDEO4入力端子(10ページ)
ビデオカメラなどとの接続に便利です。

K チューナー操作ボタン
ラジオを聴くときに使用します。(17ページ)

L ナイトモードボタン(16ページ)
ダイナミックレンジを小さくして音を抑えることができます。(ドルビーデジタルのみ)

M バランスつまみ(15ページ)
フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。

N 高音調節つまみ(15ページ)
左右にまわして高音域を調節します。

O 低音調節つまみ(15ページ)
左右にまわして低音域を調節します。

P スピーカー設定ボタン(24ページ)
テストトーンとスピーカーの各種設定に使用します。

Q ヘッドホン端子(16ページ)
ヘッドホンプラグを差し込んで、適切な音量に調節してください。

R ミュートボタン(16ページ)
一時的に音を消したいときに押してください。

S ディレイボタン(27ページ)
センターとリアのディレイタイムの設定に使用します。

T スリープボタン(16ページ)
スリープタイマーの設定に使用します。

リモコンの使用方法

本機のリモコンを使って、ティアックのURマーク(UR)の付いた機器を操作することができます。各機器に固有の操作については、各機器に付属のリモコンをお使いください。

a テープデッキⅠ操作ボタン

b CD-R/テープデッキⅡ操作ボタン
シングルカセットデッキを操作するときはこちらをお使いください。

c CDプレーヤー操作ボタン

使用上の注意

- リモコンの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコン操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

リモコン裏面のフタを外し、ケースの⊕と⊖表示に合わせて乾電池(単4形)2本を入れてください。
フタを外す際は、指先を痛めないようご注意ください。

電池の交換時期は…

操作範囲が狭くなったり、操作キーを押しても動作しない場合は、2本とも新しい電池に交換してください。

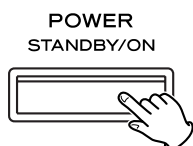
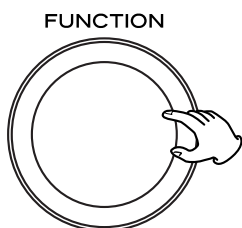
電池についての注意

⚠ **乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。**

- 乾電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 液もれを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

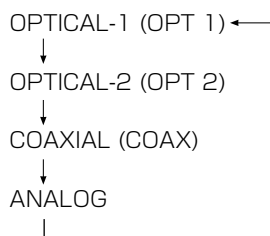
基本操作 1

1 POWERボタンを押して電源を入れる。

スタンバイインジケーターが消灯します。

2 入力切換つまみ(FUNCTION)を回してソースを選ぶ。

VCR/VID 1
　ビデオデッキなど。
DBS/ [VID 2, OPT 1, OPT 2, COAX]
　CS/BSチューナー、ビデオデッキなど。
DVD/ [VID 3, OPT 1, OPT 2, COAX]
　DVDプレーヤー、ビデオデッキなど。
AUX/ [VID 4, OPT 1, OPT 2, COAX]
　ゲーム機、ビデオデッキなど。
CDR/TAPE
　CDレコーダー、カセットデッキなど。
CD/ [OPT 1, OPT 2, COAX]
　CDプレーヤーなど。
チューナー (周波数表示)

- [　]内の表示は、そのとき選択されている入力によって変わります。
- リモコンの場合は各ソースのボタンを押してください。
- アナログのソース(VCR、CDR/TAPE、チューナー)を選んだ場合は、入力を選ぶ必要はありませんので、4 に進んでください。

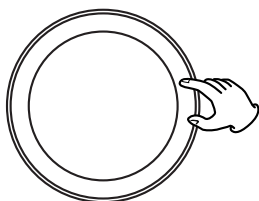
3 DIGITAL INPUTボタンを押して入力を選ぶ。

DIGITAL INPUTボタンを押す度に表示が変わります。再生したい機器が接続されている端子を選んでください。

- DIGITAL IN端子に接続したCD-Rの音を聴く場合は、入力切換つまみでデジタルのソース(CD、DBS、DVDまたはAUX)を選んで、DIGITAL INPUTボタンでCD-Rを接続してある端子を選んでください。

"DTS"、"DOLBY DIGITAL"または"SOURCE"が点滅したら

機器が接続されていない、または電源が入っていない状態でデジタル入力(OPT1、2、COAX)を選ぶと、"DTS"、"DOLBY DIGITAL"または"SOURCE"が点滅します。その場合は、機器を接続して電源を入れるか、ANALOGを選んでください。

- アナログ入力(ANALOG)を選んだ状態でDTSまたはDOLBY DIGITALボタンを押すと、入力は自動的にOPT 1になります。
再生したい機器がOPT 1以外に接続されている場合は、DIGITAL INPUTボタンを押して入力を選び直してください。

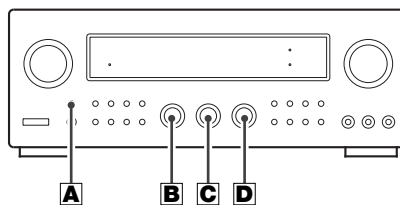
4 ソースを再生し、音量を調節する。

⚠ 突然大きな音が出ると、スピーカーを破損したり聴覚障害などの原因になることがあります。音量は最小にしておいて、ソースを再生してから適切な音量に調節するようにしてください。

録音するには

入力切換つまみ(FUNCTION)で録音したいソースを選んで再生/受信し、録音機器で録音してください。

録画するには

入力切換つまみ(FUNCTION)で録画したいソース(DBS/VIDEO2、DVD/VIDEO3またはAUX/VIDEO4)を選んで再生/受信し、VCR/VIDEO1に接続されたビデオデッキで録画してください。

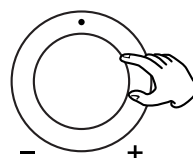
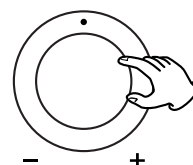
注意：
DVDのディスクによってはコピー禁止信号の入っているものがあります。そのようなディスクを録画しても、正常に再生することはできません。
また、コピー禁止信号の入っているディスクの音声をデジタル信号のまま録音することもできません。
(音声をアナログで録音することは可能です)

A フロントスピーカーのオン/オフを切り換えるには

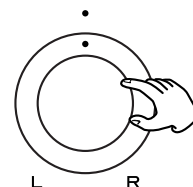
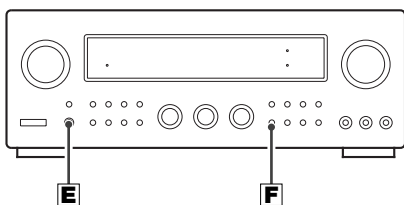
SPEAKER ON/OFFボタンを押すと、フロントスピーカーのオンとオフが切り換わります。
オンのときは"SP."インジケーターが点灯します。

SPEAKER ON/OFF

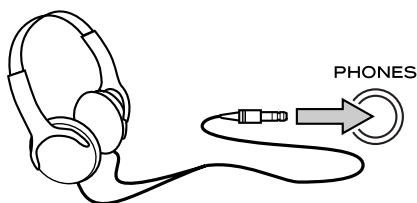
B 低音域を調節するには

BASS
FLAT

–　+

C 高音域を調節するには

D フロントスピーカーのバランスを調節するには

● 通常はセンターにセットしておきます。

基本操作 2

E ヘッドホンで聴くには

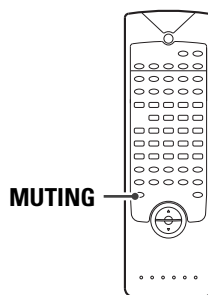
ヘッドホンプラグをPHONESジャックに差し込み、適切な音量に調節してください。

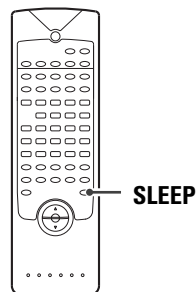
- ヘッドホンをご使用になるときは、STEREOボタンを押してステレオモードにしてください。
- スピーカーからの音を消したい場合は、SPEAKER ON/OFFボタンを押してオフにしてください。

⚠ ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

F ナイトモード(ドルビーデジタルのみ)

ナイトモードでドルビーデジタル対応のソフトを再生すると、ダイナミックレンジ(大小の音量差)を小さくして音を抑えることができます。
夜間など、音を控えめにしたいときに便利です。

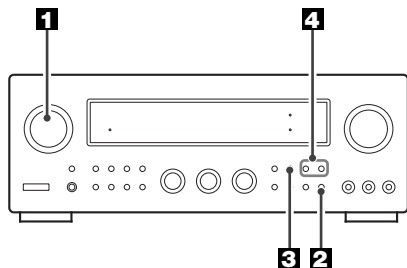
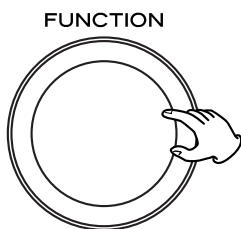
G ミュート

一時的に音を小さくしたいときは、リモコンのMUTINGボタンを押してください。

ミュート中はMUTINGインジケーターが点滅します。もう一度押すと元の音量に戻ります。なお、ミュート中に音量を操作すると、ミュートは解除されます。

H スリープタイマー

オン状態でリモコンのSLEEPボタンを押すと、ディスプレーに"SLEEP 90"と表示され、90分後に電源が切れてスタンバイ状態になります。繰り返しSLEEPボタンを押すと、10分刻みで時間を変更できます。

SLEEP 90, 80, ……(オフ)

残りのスリープタイムを確認したいときは、SLEEPボタンを1回押してください。

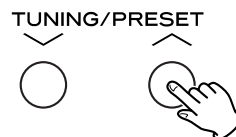
ラジオを聴くには

1 入力切換つまみ(FUNCTION)を回して チューナー(周波数表示)を選ぶ。

2 BANDボタンを押してFMかAMを選ぶ。

BAND

3 TUNING MODEボタンを押して チューニングモードにする。

TUNING MODE

TUNING MODEボタンを押すたびに、プリセットモードとチューニングモードが切り換わります。
チューニングモードにすると、"PRESET CH."インジケーターが消灯します。

4 選局する。

TUNINGボタンを0.5〜2秒押してから、指をはなしてください。自動的に放送局を受信して周波数表示が止まります。聴きたい放送局が受信されるまで、この操作を繰り返してください。
選局を中断したい場合は、TUNINGボタンを押してください。

- 受信状態が悪いときは、アンテナを動かして、受信状態が最もよくなる位置に固定してください。
- 放送局を受信すると、"TUNED"が点灯します。
- ステレオ放送を受信すると、"STEREO"が点灯します。

自動で受信できない放送局を受信するには

- TUNINGボタンを押したままでいると、周波数が変わります。聴きたい放送局が見つかったら指をはなしてください。
- TUNINGボタンを軽く押すと、AMは9kHz刻み、FMは100kHz刻みで周波数が変わります。聴きたい放送局が受信されるまでTUNINGボタンを繰り返し押してください。

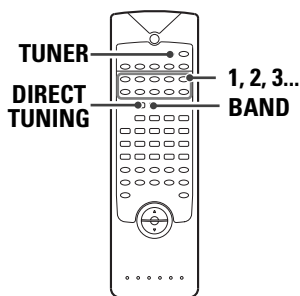
FM放送の受信状態が悪いときは

FM MODE

FM MODEボタンを押してステレオ受信とモノラル受信を切り換えてみてください。

STEREO(ステレオ)
FMステレオ放送を受信すると、"STEREO"が点灯します。

MONO(モノラル)
音声はモノラルになりますが、雑音を軽減できます。

ダイレクト選局

1 TUNERボタンを押してチューナー(周波数表示)を選ぶ。

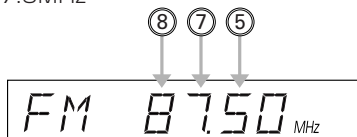
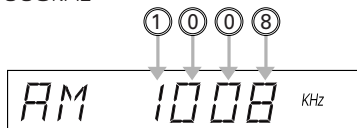
2 BANDボタンを押してFMかAMを選ぶ。

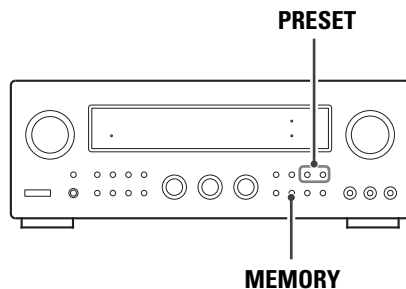
3 DIRECT TUNINGボタンを押す。

ダイレクト選局モードになり、"DIRECT IN"が数秒間表示されたあと、"FM---.--MHz"または"AM----kHz"が表示されます。

● もう一度DIRECT TUNINGボタンを押すと、ダイレクト選局モードは解除されます。

4 数字キーで聴きたい局の周波数を入力する。

例：FM87.5MHz

例：AM1008kHz

● 何もボタンを押さずに30秒放置すると、ダイレクト選局モードは解除されます。

放送局のプリセット

FM、AM放送を各30局までプリセットできます。

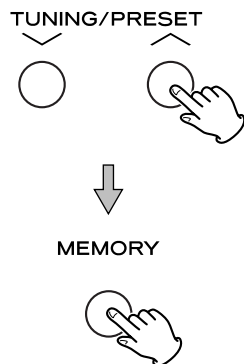
1 プリセットしたい放送局を受信する。

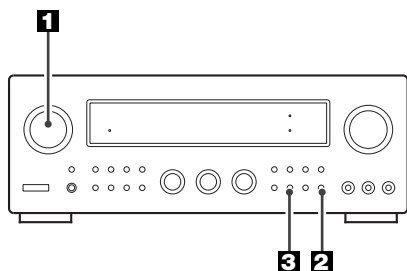
受信方法は17ページをご覧ください。

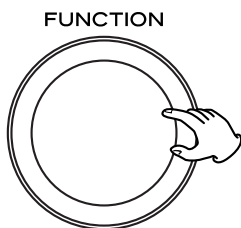
2 MEMORYボタンを軽く押す。

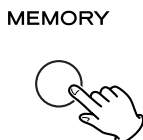
● 1.5秒以上押すとオートプリセット(次ページ)になりますので、1局ずつ手動でプリセットする場合は軽く押してください。

3 プリセットするチャンネルを選ぶ。

"MEMO"インジケーターが点灯している間に、PRESETボタンを使ってプリセットするチャンネルを選び、MEMORYボタンを押してください。

続けてプリセットする場合は**1**から**3**の操作を繰り返してください。

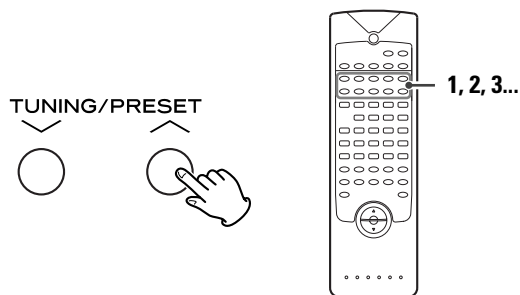
● 新たにプリセットすると、そのチャンネルに以前プリセットされていた周波数は消去されます。

自動的にプリセットするには(オートプリセット)

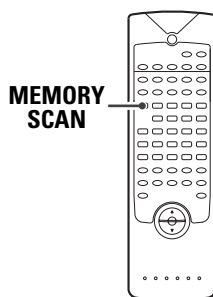
1 入力切換つまみ(FUNCTION)を回してチューナー(周波数表示)を選ぶ。

2 BANDボタンを押してFMかAMを選ぶ。

3 MEMORYボタンを1.5秒以上押す。

受信状態の良好な放送局が30局まで自動的にプリセットされます。

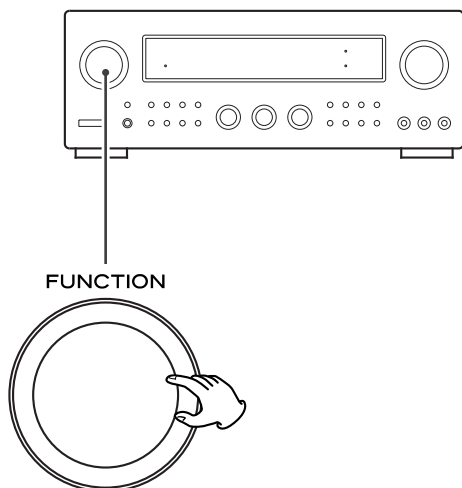
● 電波が弱い放送局は、自動ではプリセットできませんので、手動でプリセットしてください。

プリセットしたチャンネルを呼び出すには

PRESETボタンまたはリモコンの数字キーを押すと、FMまたはAMにプリセットしたチャンネルを呼び出すことができます。

● BANDボタンでFMとAMを切り換えておいてください。
● "PRESET CH."インジケーターが消えている場合は、TUNING MODEボタンを押してプリセットモードにしてください。

プリセットした放送局をスキャンするには

リモコンのMEMORY SCANボタンを押すと、FMまたはAMにプリセットされたチャンネルが順番に5秒ずつ受信されます。聴きたい放送局が見つかったら、もう一度MEMORY SCANボタンを押してください。

● BANDボタンでFMとAMを切り換えておいてください。

ビデオテープの編集

ビデオテープをダビングするには

DBS/VIDEO2、DVD/VIDEO3またはAUX/VIDEO4に接続したビデオデッキからVCR/VIDEO1に接続したビデオデッキへ、ダビングすることができます。

入力切換つまみ(FUNCTION)をまわして、コピー元のソース(DBS/VIDEO2、DVD/VIDEO3またはAUX/VIDEO4)を選んで再生し、VCR/VIDEO1に接続した機器で録画を始めてください。

別々の映像と音声を組み合わせて再生/録画するには

ビデオの画像を見ながら、CDなど他のソースの音声を聴くことができます。
また、映像と音声を別々のソースから組み合わせて録画/録音することも可能です。

入力切換つまみ(FUNCTION)をまわして、映像ソース(録画する場合はVCR/VIDEO1以外)を選んだあと、5秒以上経ってから、入力切換つまみ(FUNCTION)をまわして、CDなどの音声ソースを選んでください。
画面では映像が再生され、スピーカーからは音声ソースが出力されます。

映像と音声を組み合わせて録画/録音する場合は、VCR/VIDEO1に接続した機器で録画を始めてください。

サラウンドの設定

本機では以下のサラウンドモードを選択できます。

DTS
ドルビーデジタル
ドルビープロロジック
3ステレオ
シアター
ホール
スタジアム
ディスコ

再生するソースに合ったサラウンドモードをお選びください。

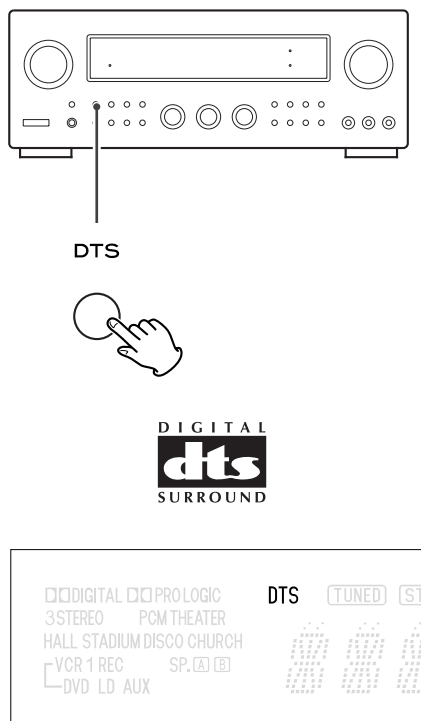
● DTS、ドルビーデジタル、ドルビープロロジックサラウンドモードには、少なくとも4本のスピーカー(フロント×2、リア×2)が必要です。

● 3ステレオモードには、3本のスピーカー(フロント×2、センター×1)が必要です。

● アナログ入力(ANALOG)が選択されているときに、DTSまたはDOLBY DIGITALボタンを押すと、入力が自動的にOPT1に切り換わります。OPT2またはCOAXに接続している機器を選ぶ場合は、DIGITAL INPUTボタンを押して選び直してください。

DTS

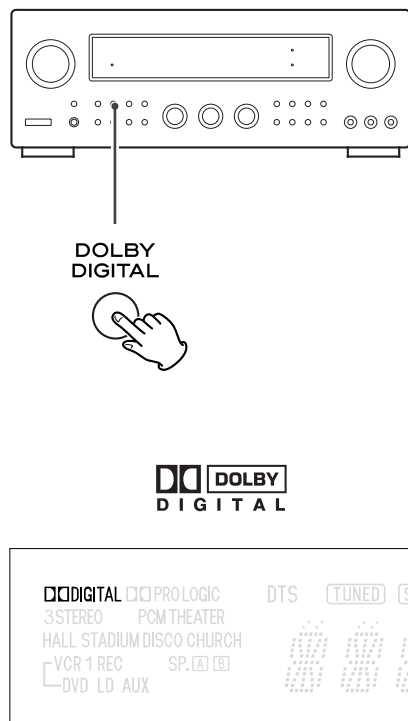
、 または"HIGH DEFINITION SURROUND"マークのついたDVDなどを再生するときは、DTSモードにしてください。

● 選択されているデジタル入力(14ページ)からDTSのデジタル信号が入力されると、本機は自動的にDTSモードに切り換わります。

DTSはデジタル・シアター・システム社が開発した劇場用のサラウンド方式で、独立した5.1チャンネルまでの音声を出力できます。圧縮率が低いため、ダイナミックレンジの広いサラウンド効果が得られます。

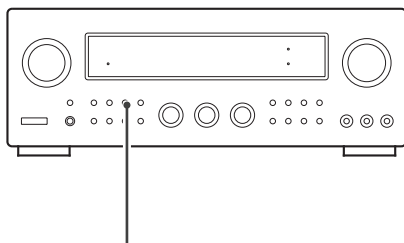
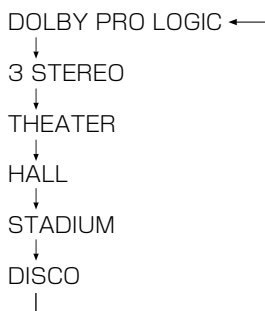
最適なサラウンド効果を得るためには、6本のスピーカー(フロント×2、センター×1，リア×2、サブウーハー×1)が必要です。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルマーク の付いたDVDやレーザーディスクを再生するときは、ドルビーデジタルモードにしてください。

● 選択されているデジタル入力(14ページ)からドルビーデジタルのデジタル信号が入力されると、本機は自動的にドルビーデジタルモードに切り換わります。

ドルビーデジタル(AC-3)は、最大5.1チャンネルの独立した音声を出力できます。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして装備されているドルビーデジタルと同一のシステムです。
ドルビーデジタル5.1ch対応のソフトを再生すると、独立した5.1チャンネルのサラウンドをお楽しみいただけます。

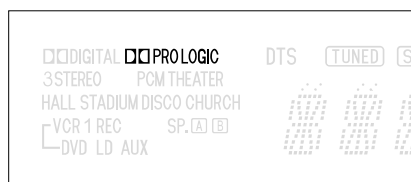
最適なサラウンド効果を得るためには、6本のスピーカー(フロント×2、センター×1，リア×2、サブウーハー×1)が必要です。

サラウンドの設定

SURROUND MODEボタンを押すたびに、サラウンドのモードが変わります。

● DTSおよびドルビーデジタルモードを選択するときは、それぞれのボタンを押してください。(21ページ)

ドルビープロロジック

(DD PRO LOGIC)

ドルビープロロジックサラウンドは、ドルビー研究所で規格化されたホームシアター用のサラウンドシステムで、映画館にいるような立体的なサラウンド効果を再現します。少なくとも4本のスピーカー(フロント×2、リア×2)が必要です。

ドルビーサラウンド対応のビデオやDVD、レーザーディスク、衛星放送などで、その臨場感をお楽しみいただけます。

3ステレオ

(3 STEREO)

部屋の条件で前方にしかスピーカーを配置できない場合に、3本のスピーカー(フロント×2、センター×1)を利用して、センター付近にセリフを定位させたまま、音像を左右に広げるサウンド効果を演出します。

ドルビーサラウンド対応のビデオやDVD、レーザーディスク、衛星放送などで、その臨場感をお楽しみいただけます。

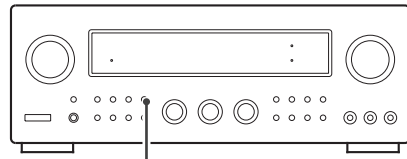
サラウンド

4本のスピーカー(フロント×2、リア×2)を使って、疑似的にサラウンドにして聴くことができます。

THEATER(シアター)
映画館の立体的なサラウンド効果を楽しめます。

HALL(ホール)
ライブコンサートの雰囲気を再現します。

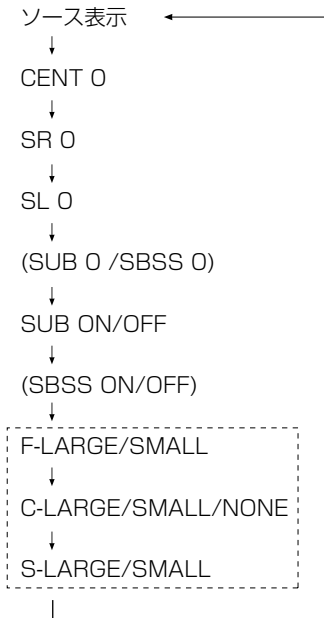
STADIUM(スタジアム)
野外スタジアムの音場を再現します。

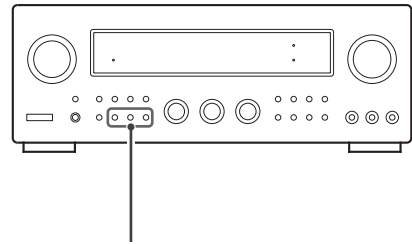
DISCO(ディスコ)
ロックやダンスミュージックに適しています。

ステレオモード

- STEREOボタンを押すと通常のステレオモードになります。リアおよびセンタースピーカーからの音は出ません。
- DTSまたはドルビーデジタルモードのときにSTEREOボタンを押すと、全ての音声がL/Rの2チャンネルから出力されます。

スピーカーの設定

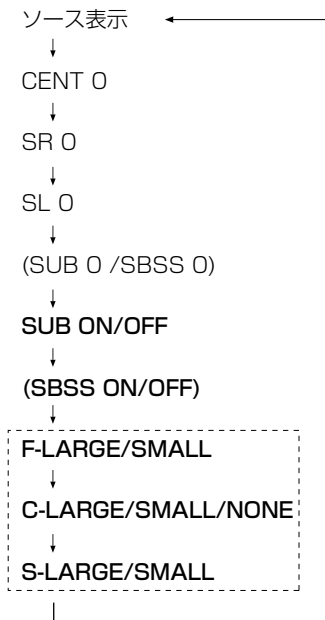
お使いのスピーカーに合わせて設定してください。

SETUPボタンを押すたびに、ディスプレーの表示が変わります。

● そのとき選択されているサラウンドモードによって、表示される項目が異なります。
 ┆┄┄┄┆ の中は、DTS、ドルビーデジタルまたはドルビープロロジックモードのときだけ表示されます。

● 5秒以上放置するとソース表示に戻ります。

1 SETUPボタンを繰り返し押して、設定する項目を選ぶ。

2 SELECTボタンを押して設定値を変える。

他の項目を設定する場合は、**1**と**2**を繰り返してください。

全ての設定が終わったら、5秒以上放置すればソース表示に戻ります。または、SETUPボタンを繰り返し押してソース表示に戻してください。

サブウーハーの設定

SUB-ON(サブウーハー・オン)：
サブウーハーを使用するときはオンにしてください。90Hz以下の音がサブウーハーから出力されます。

SUB-OFF(サブウーハー・オフ)：
サブウーハーを使用しないときはオフにしてください。90Hz以下の音はフロントスピーカーから出力されます。

SBSS(スーパーバス)

サブウーハーが接続されていない場合にSBSSを使うと、低音を強調することができます。

- SBSSは、ステレオまたはサラウンドモード(シアター、ホール、スタジアム、ディスコ)のときに使用できます。
- サブウーハーがオンのときは使用できません。
- －10dBから＋10dBまで、1dB刻みに設定できます。

フロントスピーカーの設定

F-LARGE(フロント・ラージ)：
大型のフロントスピーカーを使用する場合のモードです。

F-SMALL(フロント・スモール)：
小型のフロントスピーカーを使用する場合のモードです。90Hz以下の低音はサブウーハーから出力されます。

サブウーハーがオフの場合は、ここでの設定は無視してフロントからフルレンジで出力されます。

センタースピーカーの設定

C-LARGE(センター・ラージ)：
大型のセンタースピーカーを使用する場合のモードです。

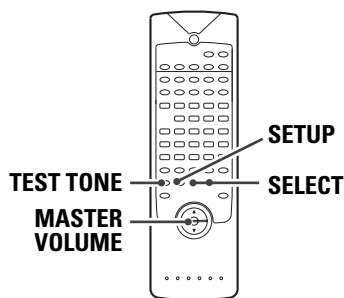
C-SMALL(センター・スモール)：
小型のセンタースピーカーを使用する場合のモードです。

C-NONE(センターなし)：
センタースピーカーを使用しない場合に、センタースピーカーの効果を左右のフロントスピーカーで代用します。
(DTS、ドルビーデジタル、ドルビープロロジックモードのときのみ、選択可能です)

リアスピーカーの設定

S-LARGE(サラウンド・ラージ)：
大型のリアスピーカーを使用する場合のモードです。

S-SMALL(サラウンド・スモール)：
小型のリアスピーカーを使用する場合のモードです。

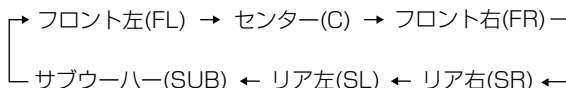
テストトーン

テストトーンを使うと、DTS、ドルビーデジタルまたはドルビープロロジックのときの各スピーカーの音量を調節することができます。一度調節すれば、スピーカーを移動しない限り、再度調節する必要はありません。

● リモコンを使って、実際の視聴位置で調節してください。
● フロントスピーカーのバランスは、あらかじめ調節しておいてください(15ページ参照)。
● お使いのスピーカーに合わせて、各スピーカーのモードを設定しておいてください(24ページ参照)。
● SETUPボタンを5秒以上押すと、初期設定に戻せます。

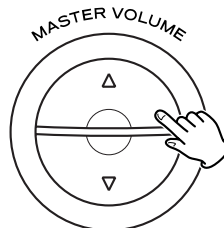
1 DTS、ドルビーデジタルまたはドルビープロロジックモードにしてから、TEST TONEボタンを押す。

● 他のモードではテストトーンは機能しません。

テストトーンがでる順番

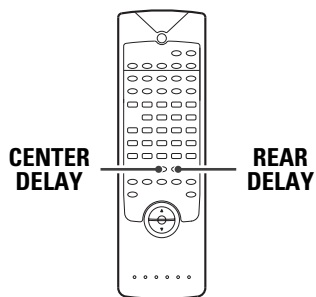
→ フロント左(FL) → センター(C) → フロント右(FR) →
サブウーハー(SUB) ← リア左(SL) ← リア右(SR) ←

テストトーンが各チャンネルから2秒ずつ出力されます。センタースピーカーなど接続されていないスピーカーがあった場合は、そのチャンネルはスキップします。

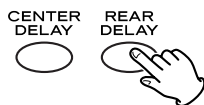
● テストトーンを中断したい場合は、もう一度TEST TONEボタンを押してください。

2 テストトーンの音量を調節する。

3 センター、リアスピーカー、サブウーハーの音量がフロントスピーカーと同じに聴こえるように調節する。

SETUPボタンを押してCENT、SR、SL、SUBまたはSBSSを選んでから、SELECTボタンを押して音量を調節してください。(－10～＋10dB)

4 調節が終わったら、TEST TONEボタンを押して終了する。

ディレイタイム

部屋の広さ、形、スピーカーの配置、聴く人の位置に応じて最適なサラウンド効果を得るために、センタースピーカーとリアスピーカーのディレイタイムを調節することができます。

ディレイタイムを長く設定すると大きめの音場空間に、短く設定すると小さめの音場空間になります。
センタースピーカーはリモコンのCENTER DELAYボタンで、リアスピーカーはREAR DELAYボタンで調節してください。

ディレイタイムの設定範囲 (1ms刻みに設定できます)

ドルビーデジタルモード：
0〜15ms(S-DELAY)
0〜5ms(C-DELAY)
ドルビープロロジックモード：
15〜30ms(S-DELAY)

- ドルビーデジタルモードでディレイタイムを調節した場合、ドルビープロロジックモードに変えるとサラウンドチャンネルに15msが自動的に加算されます。
- ドルビープロロジックモードでディレイタイムを調節した場合、ドルビーデジタルモードに変えるとサラウンドチャンネルから15msが自動的に減算されます。

おや？故障かな？

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。
それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または最寄りの当社サービスセンターにご連絡ください。

■全般

電源が入らない。

➡ 電源コードの差し込みが不完全ではありませんか？

音が出ない。

➡ 音量つまみで音量を調節してください。
➡ 入力切換つまみ(FUNCTION)で聴きたいソースを選んでください。
➡ スピーカーとの接続をもう一度確認してください。
➡ SPEAKER ON/OFFボタンを押してオンにしてください。
➡ MUTINGボタンを押してミュートを解除してください。
➡ BALANCEつまみが片側に寄りすぎている場合は、中心に合わせてください。

再生中、音がとまる。電源を入れた後も音が出ない。

➡ スピーカーコードの(+)と(−)がショートしている可能性があります。すぐに電源を切ってスピーカーコードを確認してください。
➡ 正しい定格インピーダンスのスピーカーシステムを使用してください。
➡ 一度電源を入れなおしてから、音量レベルを低くしてください。

低音が完全に再生されない。ステレオの定位が不安定。

➡ スピーカーシステムとの接続の極性(+、−)を確認してください。

"PROTECT"が表示される。

➡ スピーカーとの接続をもう一度確認してください。
➡ 正しい定格インピーダンスのスピーカーシステムを使用してください。

左右の音が逆になる。

➡ スピーカーおよび入出力端子の接続の左右が逆になっていないか確認してください。

リアスピーカーから音が出ない。

➡ スピーカーとの接続をもう一度確認してください。
➡ 再生するソフトに合ったサラウンドモードを選んでください。(20〜23ページ)

サブウーハーから音が出ない。低音が出ない。

➡ サブウーハーとの接続を確認してください。
➡ サブウーハーをオンにしてください。(25ページ)
➡ 低音が入っているソースを再生してください。

"DTS"、"DOLBY DIGITAL"または"SOURCE"が点滅する。

➡ 機器が接続されていない、または電源が入っていない状態でデジタル入力(OPT1,2,COAX)を選ぶと、"DTS"、"DOLBY DIGITAL"または"SOURCE"が点滅します。その場合は、機器を接続して電源を入れるか、ANALOGを選んでください。

DTSまたはドルビーデジタルモードを選べない。

➡ DVDプレーヤー側の出力設定等を確認し、DTSまたはドルビーデジタルマークの付いたディスクを再生してください。

リモコンで操作できない。

➡ 電池が消耗していたら、2本とも新しい電池に交換してください。
➡ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できません。本体の正面から約5メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。

雑音がする。

➡ テレビなど強い磁気を帯びたものからはできるだけ離して設置してください。

■チューナー

受信できない。雑音が多い。
➡ アンテナの方向を調整してください。
➡ 正しく選局してください。
➡ 外部アンテナを使用してください。

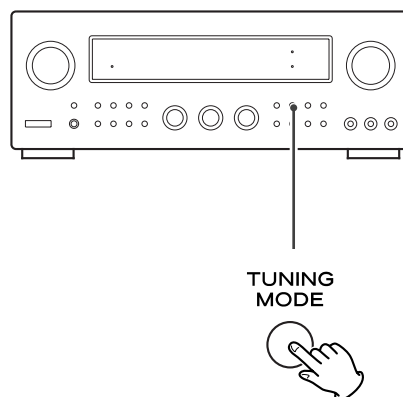
ブーンというノイズが聞こえる。
➡ 接続コードの近くに電源コードや蛍光灯等がある場合は、本機からできるだけ遠ざけてください。

ステレオ放送なのにモノラルで受信される。
➡ FM MODEボタンを押してステレオ受信に切り換えてください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源を切り、約1分後に始めから操作してください。

メモリーバックアップ

本機にはメモリーバックアップ機能があり、プリセットチャンネルやスピーカーなどの設定は、停電などがあっても約3日間は保持されます。
電源コードを外したまま3日以上放置すると消去されますので、電源コードはつないだままにしておいてください。

リセットするには

電源をオンにして、VCR/VIDEO1を選んだ状態で、TUNING MODEボタンを3秒以上押すと、全てのメモリーが消去されて出荷時の状態に戻ります。

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。
化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ **お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。**

仕　様

■アンプ部

サラウンド出力(0.9% THD, 1kHz, 6Ω)

フロント . . . . 100W+100W
センター 100W
リア. . . . . 100W+100W

ディレイタイム

ドルビーデジタル . . . . リア：0〜15ms
センター：0〜5ms
ドルビープロロジック . . . . リア：15〜30ms

周波数特性 . . . . . . ＊ライン：20Hz〜65kHz, +1/－3dB
SN比 . . . . ＊ライン：95dB(IHF-A)
入力感度/インピーダンス . . . ＊ライン：220mV/47kΩ
出力レベル/インピーダンス . . . .
CD-R/TAPE REC：200mV/2.2kΩ
トーンコントロール . . . . BASS：±10dB (100Hz)
TREBLE：±10dB (10kHz)

■デジタルオーディオ部

サンプリング周波数 . . . 32kHz,44.1kHz,48kHz,96kHz
デジタル入力レベル/インピーダンス

DIGITAL1, 2(光) . . . . －15dBm〜－21dBm
DIGITAL 3(同軸). 0.5Vp-p/75Ω

■FMチューナー部

受信周波数. . . . . 76.0MHz〜90.0MHz
感度(IHF) . . . . モノ：11.2dBf
50dBクワイティング感度

モノ. 15.3dBf
ステレオ 38.5dBf

キャプチャーレシオ 2.0dB
イメージ妨害比. 45dB
AM抑圧比 55dB
高調波歪み率(1kHz)

モノ 0.4%
ステレオ. 0.5%

周波数特性 . . . . 30Hz〜15kHz, +1/－1.5dB
ステレオセパレーション(1kHz) 40dB
S/N比(1kHz)

モノ 75dB
ステレオ. 70dB

■AMチューナー部

受信周波数. . . . . . 522kHz〜1,620kHz(9kHzステップ)
感度 55dB/m
高調波歪み率. . . . . 0.8%(85dB/m)
S/N比 . . . . 45dB(85dB/m)

■ビデオ部

入力感度/インピーダンス 1.0Vp-p/75Ω
出力レベル/インピーダンス 1.0Vp-p/75Ω

■共通

電源 . . . . AC 100V, 50〜60Hz
消費電力. 160W
外形寸法 (mm). . . . . 435(W)x165(H)x350(D)
質　量 9.4kg

■付属品

リモコン(UR-417)
リモコン用乾電池（単4）x 2本
AMループアンテナ
FM室内アンテナ
取扱説明書
保証書

＊ ライン：CD, CD-R/TAPE, VCR/VIDEO1,
DBS/VIDEO2,DVD/VIDEO3,AUX/VIDEO4

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

■保証書

この製品には保証書が添付されています。保証書は、お買い上げの際に販売店が「お買上げ日・販売店名」等を記入した上でお渡し致します。記入事項及び記載内容ををご確認の上、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から一年です。

■補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
この期間は通商産業省の指導によるものです。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りの当社サービスセンター(裏表紙に記載)にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

28ページの「おや？故障かな？」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または最寄りの当社サービスセンターにご連絡ください。
なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害(録音内容などの補償)の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

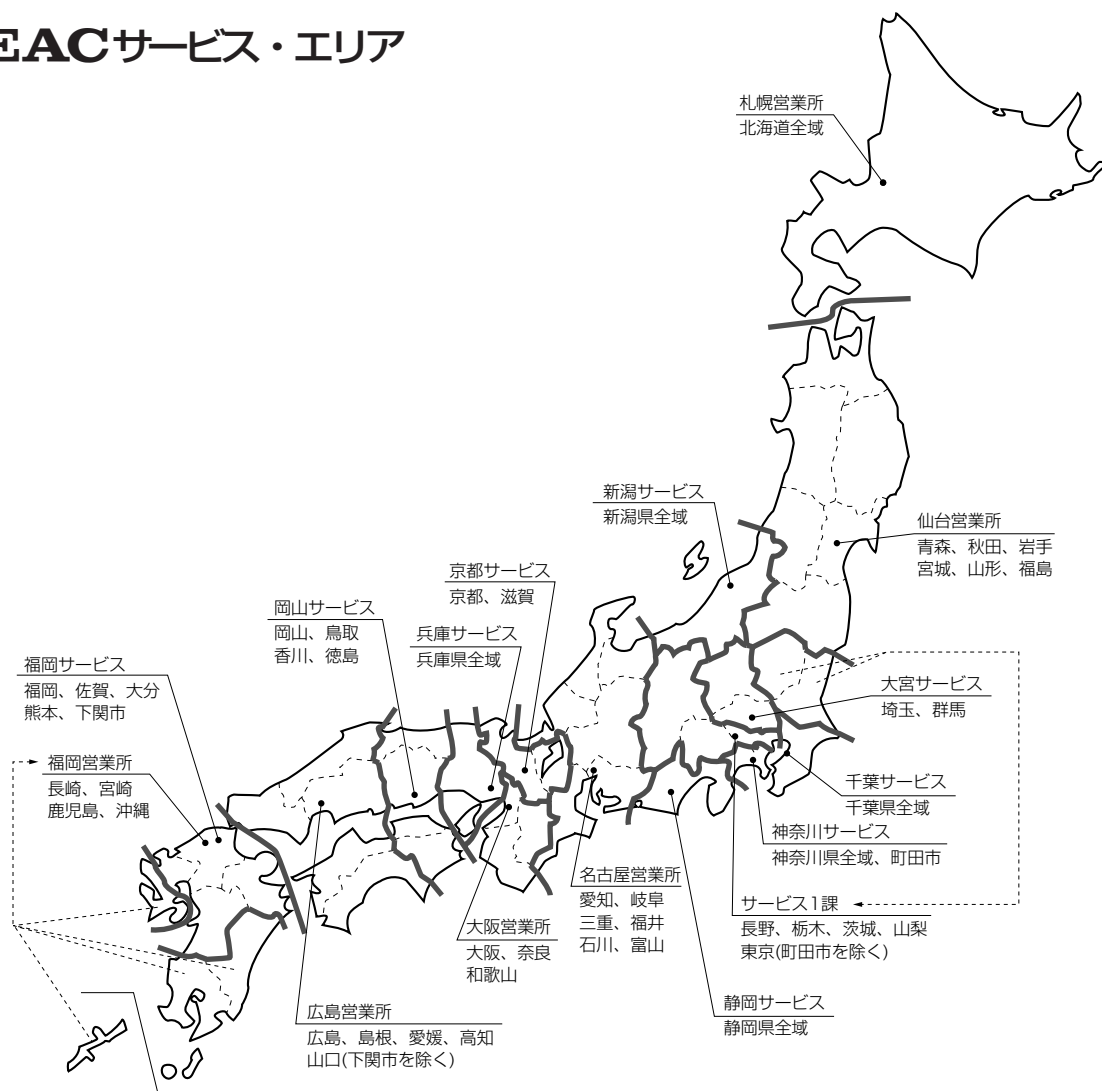
技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。
　　　　測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費等が含まれています。
部品代：修理に使用した部品代金です。
　　　　その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：AVデジタルサラウンドレシーバー AG-D8900
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況(できるだけ詳しく)

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

TEACサービス・エリア

ティアック株式会社

ティアック株式会社	営業部	☎(0422)52-5073	〒180-8550	東京都武蔵野市中町3-7-3
技術的なお問い合わせ	AV技術相談室	☎(0422)36-2210	〒180-8550	東京都武蔵野市中町3-7-3
アフター・サービスに関するお問い合わせ	札幌営業所	☎(011)521-4101(代)	〒064-0807	札幌市中央区南7条西2-2　くぼたビル
	仙台営業所	☎(022)218-0007(代)	〒981-3135	仙台市泉区八乙女中央3-2-30　リバーサイドヒル及川
	新潟サービス	☎(025)245-0103	〒950-0865	新潟県新潟市元馬越1-4-11　黒井ハイツ
	大宮サービス	☎(048)642-4551	〒331-0052	大宮市三橋2-846
	サービス1課	☎(0422)52-5101	〒180-8550	東京都武蔵野市中町3-7-3
	千葉サービス	☎(043)255-1281	〒260-0042	千葉市中央区椿森1-21-13　清水ビル
	神奈川サービス	☎(042)746-6850	〒228-0803	相模原市相模大野7-14-9　グリーンシティビル
	静岡サービス	☎(054)238-2431	〒422-8034	静岡市高松1-12-1　寿道ハイツ105号
	名古屋営業所	☎(052)702-3100(代)	〒465-0025	名古屋市名東区上社5-406
	京都サービス	☎(075)871-8730	〒616-8224	京都市右京区常盤窪町19　西垣ビル
	大阪営業所	☎(06)6384-5201(代)	〒564-0062	吹田市垂水町3-34-10
	兵庫サービス	☎(0727)55-1002	〒666-0004	兵庫県川西市萩原1-11-29
	岡山サービス	☎(086)225-8601	〒700-0945	岡山市新保1155-1
	広島営業所	☎(082)294-4751(代)	〒730-0846	広島市中区西川口町13-19
	福岡営業所	☎(092)431-5781(代)	〒812-0008	福岡市博多区東光2-2-24
	福岡サービス	☎(092)957-2050	〒811-2107	福岡県糟屋郡宇美町とびたけ3-7-12

■上記営業所にはサービス･センターを併設しています。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日を除く 9:30〜12:00/13:00〜17:00です。
■住所や電話番号は, 予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

PRINTED IN KOREA　0700D·MA-0393A